

平成 14 年 6 月 28 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海鉦区における商業発見宣言について

本年 6 月 28 日、カザフスタン共和国アスタナ市において、カザフスタン共和国・国営石油天然ガス会社 KazMunayGas と国際石油開発株式会社(インペックス)をはじめとする国際コンソーシアムは、予てより探鉦事業を推進している同国 北カスピ海沖合鉦区において試掘井と評価井の掘削作業を通じて原油の賦存を確認しているカシャガン構造(同国アティラウから南東約 70km に位置し、水深は 3~5m)の商業発見宣言を行った。

本宣言は、同鉦区に係る生産分与契約に基づき、2000 年 6 月の試掘第一号井における原油発見以来 24 ヶ月間の評価作業期間を経て行われ、現段階での予察的評価によれば、カシャガン油田より生産可能となる原油の可採埋蔵量は 70 億から 90 億バレル程度と推定されている。尚、埋蔵量については、今後の追加作業により取得されるデータ並びにスタディの結果により修正されることとなる。

カシャガン構造の商業発見宣言は、本プロジェクトを推進している当社、ENI(オペレーター)、ExxonMobil をはじめとする日米欧 7 社の国際コンソーシアムが、カザフスタン政府の協力の下に達成した重要な成果であり、環境・安全面に配慮しながら、未知で難易度の高い作業に世界最高水準の技術・英知を結集し果敢に挑戦し克服してきた結果、実現されたものである。本宣言により、国際コンソーシアムはこれまでの探鉦作業の結果にもとづき、来年第 1 四半期までに開発計画を策定することとなる。

今後の探鉦作業としては鉦区内に存在するカシャガン構造以外の 4 つの構造において試掘作業を引き続き実施することとしている。

※) 補足説明

- 1.北カスピ海沖合鉦区は、東部約 4,300km²、西部約 1,275km²(合計約 5,575km²)の 2 つのブロックよりなり、今回商業発見宣言を行ったカシャガン構造は、東部ブロックに位置する。
- 2.本鉦区には、石油・ガスを胚胎する可能性の高い複数の大規模な構造が存在しているが、

その中でも最大規模のカシャガン構造にて、試掘井 2 坑および評価井 2 坑の掘削作業を終了し、現在さらに評価井 1 坑の掘削作業を実施中である。

3.今後の本鉱区における探鉱作業としては、2002 年にカラムカス構造、2003 年にはカシャガンサウスウエスト、アクトテおよびカイランの各構造における試掘作業を予定している。

4.国際石油開発(株)は、平成 10 年 9 月に本鉱区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社 KCS(Kazakhstan Caspi Shelf)社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアムの一員となり、その後、BP 社および Statoil 社との間で昨年 9 月に各々、締結された権益譲渡協定に基づき鉱区権益を追加取得している。現在のコンソーシアム各社の参加権益比率は、British Gas 16.67%、Eni 16.67%、ExxonMobil 16.67%、当社(インペックス)8.33%、Phillips 8.33%、Shell 16.67%、TotalFinaElf 16.67%となっている。

5.インペックス北カスピ海石油(株)は、平成 10 年 8 月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発(株)および三菱商事(株)からの出資を受けている。(本年 6 月現在の資本金は、335 億円、出資比率は、石油公団：50%、国際石油開発：45%、石油資源開発および三菱商事：各 2.5%)

